

研究課題：8020 運動公募研究抄録の計量テキスト分析

— 過去 14 年間の全成果報告書の可視化 —

研究者名：下高原理恵<sup>1)</sup>、緒方重光<sup>2)</sup>

所 属：<sup>1)</sup> 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科、<sup>2)</sup> 鹿児島大学医学部保健学科

## I. 緒言

平成 13 年に 8020 研究事業が始まり、国民健康づくり運動の推進とともに、ネット上に 14 年間で 208 編の研究報告書が公開されている。重要な情報の宝庫である蓄積された抄録の総括的評価を実施することは意義があり、これまでに口腔ケアに関わる専門家がどのような研究テーマに関心を持ち、研究を行ってきたかを客観的に調査分析することが、本研究の目的である。

## II. 研究方法

データの分析にはテキストマイニングの手法を用いた。未加工データを Excel に入力して、研究報告書の電子テキスト化を行った。次に、解析ソフトウェアとして、KH Coder (ver. 2.00) と Text Mining Studio (数理システム) を用いて内容分析を実施し報告書の可視化を行った。

## III. 分析結果及び考察

研究報告書のテキストデータは、文章数 3,739、総抽出語数 147,075 語、分析対象語数 61,202 語であり、異なり語数 7,081 語、分析対象異なり語数 5,443 語であった。全報告書抄録の上位 20 頻出語を抽出した。とくに「口腔」は 1,245 回、「歯科」は 922 回、続く「調査」「機能」「ケア」も 400 回以上使われていた。

### 1. 単語頻度解析

多く使用されている単語ほど、テキストのなかでのキーワードになり得る。上位の頻出語には、「研究」「高齢者」「開発」「検討」「効果」「QOL」が見て取れた。下位にも「口腔ケア」「口腔機能」「8020 達成者」「口腔機能向上プログラム」等ポイントとなる単語が存在していた。

### 2. 係り受け頻度解析

テキスト中で意味のつながりのある単語と単語の組み合わせのことで、単語単位よりも文章に近い意味を把握できた。

### 3. ことばネットワーク

共起する語の組み合わせに注目することで、研究報告書内にどのような主題が多く出現していたのかを探った。主なものは、①口腔ケア介入-認知機能-データベース-専門的口腔ケア-要介護高齢者-口腔機能向上プログラム、②行政歯科専門職-双方向情報システム-公衆衛生、③栄養-口腔乾燥症-健康-歯科医師-栄養管理、④市町村レベル-歯周病対策事業-取り組み、等が共起していた。

### 4. 対応分析

各年度のキーワードの出現パターンを把握した。抽出語のポジショニングの確認により、「口腔保健対策」と「施設高齢者ケア」という2つの軸があることが見出せた。